

河井康郎君を悼む

二十四回生 奥田 陽一

河井康郎君は昨年の千里山会総会で世話人会代表に指名され、その後11月17日に開いた今年の総会の準備打合せにも元気に顔を出され、活発に意見を出して頂いた矢先の12月9日に還らぬ人となられました。

君とは千里第二小学校・吹田一中で共に学び、遊び、部活に励んだ仲で、一緒の組になったことはないのですが一中への通学路が同じで、加藤君、丸子君などと一緒にあってしゃべりながら、千里山会館の横の坂を下り、片山さんの家の前を通って一中に通いました。

君は準硬式野球部、小生は軟式テニスや陸上と種目は違いましたが、「下の運動場」で元気なかけ声を掛けながら、練習に励む君をまぶしく見た思い出があります。3年生の10月に父上の転勤で急に東京へ転校されました。

その後40年間お互いに別の人生を歩み、音信が途絶えていたのですが、97年11月15日銀座ライオンであつ

た第一回千里山会で再会しました。君は早稲田大学を卒業後、安田火災海上（現損保ジャパン）に入社、社業に励まれて監査役を務めておられました。話し方が優しくソフトになり、昔はもつとやんちゃな感じだったのにと年月の流れを感じました。

安田火災海上本社ビルの最上階にある、ゴッホのひまわりで有名な「東郷青児美術館」で開かれる特別展の招待券を何度かもらったのも懐かしい思い出です。

君の千里山への愛着には並々ならぬものがあり、ほぼ毎回千里山会の総会に出席されました。退職後、趣味の菊作りを始められ、会誌7号には「4年目を迎えた大菊作り」を寄稿されました。それを機に毎年総会に10鉢ほどの菊鉢を寄贈頂くようになり、懇親会での景品として呼び物になりました。

2011年の南国酒家での総会直前に電話があり、大腸ガンの手術をするので欠席すること、内視鏡で簡単に手術できるので心配することはないと励ましました。事実12月に開いた常任幹事会には少し痩せられたようでしたが、元気に出席され安心しました。ただ、術後毎月病院へ行つてるとのこと、抗がん剤か放射線治療をされてるのかなと少し気になりました。

翌年の2012年10月19日、総会の前日に菊鉢を預りにお宅へ伺いました。一昨年と変わらぬ立派な菊鉢が沢山並び、ふと、昔「千里山遊園」であった菊人形のことを思い出しました。その夏、奥様とアメリカ東海岸のクルーズ旅行をされ、セント・ローレンス湾に入り「赤毛のアン」の舞台であるプリンス・エドワード島も訪れたとのことでした。看病に尽くされた奥様へのせめてもの感謝の気持ちだと感じました。

昨年2013年3月寺澤世話人会代表の後任を推薦する常任幹事会がありました。君を推す声が高く、最後に小生が「病気の方は大丈夫やろな」と念を押したところ「もう大丈夫です」と力強い返事があり、10月の総会で世話人会代表に正式に就任されました。

11月23日君が緊急入院されたとの報せを受け、大変驚きました。奥様の電話で入院の前日も新宿で会社の友人達と会合を持たれていたこと、手の施しようがなくがんの摘出手術が出来なかったことを知りました。痛恨の極みながら、近しい人にも弱音を漏らすことのなかった君は、意識が戻ることなく旅立たれました。

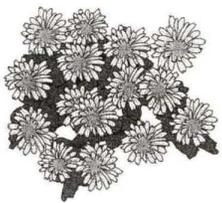
昨年の総会后小生は君に相談せずに今年の総会日程を10月25日で仮予約しました。後から君に相談した所

「その日は三溪園の菊花展に鉢を運び込む日なので何とか勘弁して欲しい」とのこと、慌てて9月27日に変更しました。君は一年以上先の予定を立てておられ、更には世話人会代表の任期三年も、抗がん剤と放射線治療で全うするとの強い決意を持っておられたのに、逝かれたことは誠に残念無念だったことでしょう。

総会にご寄贈頂いた菊鉢は優に百鉢を越えます。

菊は花が終わっても翌春には小さな芽が沢山生えてきます。挿し芽をして丹精すれば秋にはまた美しい花を咲かせます。会員の皆様の中にも毎年花を咲かせておられる方も多いことと思います。小生のペランダでも、菊の芽がすくすくと伸びております。きれいに咲いた菊花を眺めながら君を想い出すことでしょう。

心よりご冥福をお祈りします。



菊花展兄丹精の一鉢も 久恵

祭壇に飾られた妹さんの28馬場久恵さんの一句です。